

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2006-198596

(P2006-198596A)

(43) 公開日 平成18年8月3日(2006.8.3)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
B09B 3/00 (2006.01)	B09B 3/00	Z A B A 4 D 0 0 4
B01F 7/02 (2006.01)	B01F 7/02	B 4 D 0 5 9
B01F 9/02 (2006.01)	B01F 9/02	C 4 G 0 3 6
B01F 9/08 (2006.01)	B01F 9/08	4 G 0 7 8
C02F 11/00 (2006.01)	C02F 11/00	B 4 H 0 6 1
審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 6 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願2005-36724 (P2005-36724)

(22) 出願日 平成17年1月18日 (2005.1.18)

(71) 出願人 502270279

長谷川 博

埼玉県蕨市北町1丁目10番地4号アビタ

シオン蔵101号

(72) 発明者 城田 徳安

埼玉県北葛飾郡杉戸町高野台南2丁目6番地7号

(72) 発明者 長谷川 博

埼玉県蕨市北町1丁目10番地4号アビタシオン蔵101号

Fターム(参考) 4D004 AA02 AA04 CA15 CA22 CA42

CB09 CB13 CB21 CB28 CB32

CB43 CC02 DA02 DA06

最終頁に続く

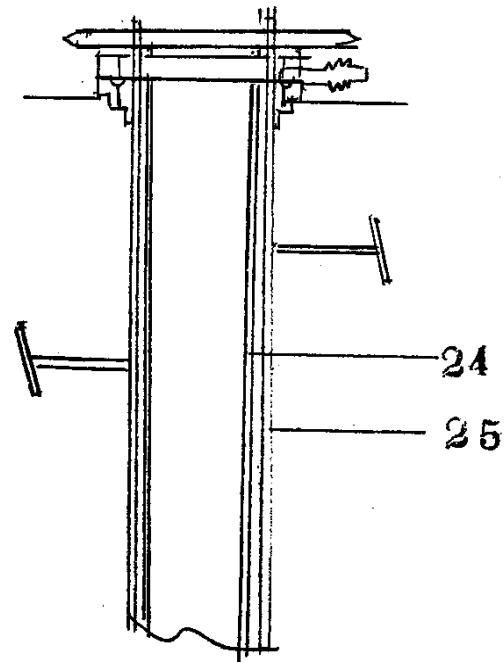
(54) 【発明の名称】 回転処理機

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 食品残渣、ヘドロ、汚泥処理の再生処理において、処理装置構造の簡素化および処理時間の短縮化を図った処理機を提供する。

【解決手段】 処理機全体を円筒形にし、円筒形にした処理機2の円筒内面に爪状の突起物4を設置し、円筒内の回転シャフト6とシャフトに取り付けた各種形状の回転羽との組合せ、円筒の回転方法とシャフトの回転方向を逆とすることにより処理能力も向上し一度に多くの廃棄物を処理で、円筒にしたことにより廃棄物の粘着度の問題も解決できる。

【選択図】 図6



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

本発明は、食品残渣、汚泥、河川等のヘドロの再生処理を目的に開発した、分解処理機です。

処理機は筒状である。筒状のパイプの左右を塞ぎ、筒状の中心に穴を開けその中に回転シャフトを通した、回転シャフトの外側に攪拌羽を取り付けた、攪拌羽はさまざまな形状にする、それには処理機に大きさにより変える。羽の形状は棒状、板型、鎌形、等を使う。

【請求項 2】

処理機を筒状にしたのは、廃棄物が一度に多く処理出来る、また筒状にすることにより処理機を回転できる、回転には筒状の処理機の下にタイヤを付けた。タイヤを回転させることにより筒状処理機も回転する。処理機本体が右回転すると、処理機の中心シャフトは左回転するようにした。

10

【請求項 3】

筒状処理機の内部に突起物を取り付けた。突起物を取り付けたことにより攪拌分解処理が早まる、又、処理の終えたコンポストを取り出すのにも役立つ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、処理機全体を筒状にし、処理機全体を回転させ処理する処理機に関するものである。

20

[背景技術]

【0002】

現在、円筒の処理機は無く、判円筒の処理機が大半です。処理機全体が回転するものはない。

[発明の開示]

[発明が解決しようとする課題]

【0003】

そのために、次のような問題点があった。

(1) 処理機はきめられた量しか食品残渣等の投入ができなかった。

(2) 処理機の処理能力も時間が掛かった。

30

本発明は、これらの問題点を解決するためになされたものである。

[課題を解決するための手段]

【0004】

従来は角型の処理機が大半であり、処理機の中心部に回転シャフトを通し、シャフトに攪拌羽を固定し、食品残渣等を攪拌する仕組みです、本発明は処理機全体を円筒形にし、その中心部にシャフトを通しシャフトにさまざまな形状の攪拌羽を取り付ける。円筒形の処理機も回転するようにした。円筒形の処理機本体の回転には、円筒形の処理機の下、左右のゴムタイヤを回転させる。ゴムタイヤを回転させることにより円筒形処理機も回転する。円筒形処理機の回転させるには、モーターとギヤーチーエンでおこなう。

40

主軸シャフトの回転もモーターにて行う。

主軸シャフトが右回転すると、円筒処理機は左回転するようにした。円筒の為、処理能力も大幅に増え、処理能力も早い。

[発明の効果]

【0005】

円筒形にしたため従来より小型になり、処理能力大幅にあがった。

[発明を実施するための最良の形態]

【0006】

以下、本発明の実施の形態について説明する。

符号 1 は、処理機全体のカバーです。符号 2 は円筒処理機、符号 3 は円筒処理機に廃棄物を投入口です。符号 4 は円筒処理機内部に設けた爪です。符号 5 は円筒処理機を支える支

50

柱です。符号 6 は回転シャフトです。符号 7 は回転羽です。符号 9 は円筒処理機を回転させるシャフトです。符号 11 は回転タイヤです。符号 10、13 はモーターで 12、15 は歯車です。

符号 20、21、22、23、24、25、は円筒処理機中心シャフトです。20 は空気吹き込み口、22 は円筒処理機内部に空気を送り込む吹き出し口です。符号 25 はシャフト 24 はシャフトの中もう 1 本シャフトがある。中のシャフトは固定する。固定したシャフトのなかに温度ヒーターを入れ処理機の温度コントロールを図る。

本発明は以上のような構成で、開発した。

このように処理機を円筒にすることにより処理量も多くでき、また従来の処理機よりも小型で、ドラムが回転するため処理時間も短縮できる。

10

【図面の簡単な説明】

【0007】

[図1] 回転処理機の断面図

[図2] 回転処理機の斜視図

[図3] 回転処理機組図

[図4] 回転処理機斜視組図

[図5] シャフト断面図

[図6] シャフト組図

[図7] ドラム組図

【符号の説明】

20

【0008】

1 回転処理機全体カバー

2 円筒処理機本体

3 投入口

4 円筒処理機内の爪

5 処理機支柱

6 シャフト

7 攪拌羽

8 廃疾口

9 タイヤシャフト

30

10 モーター

11 回転タイヤ

12 歯車

13 モーター

14 チェーン

15 歯車

16 シャフト

17 チェーン

18 円筒処理機

19 歯車

40

20 空気取り入れ口

21 内側シャフト

22 空気吹き出し口

23 フランジ

24 シャフト内側

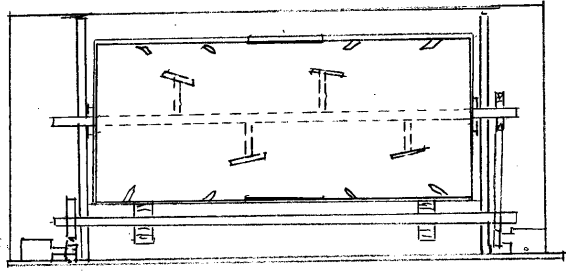
25 主軸シャフト

26 円筒処理機

27 内側爪

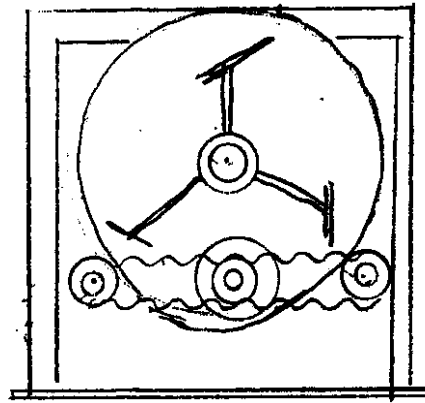
28 回転タイヤ

【 图 1 】



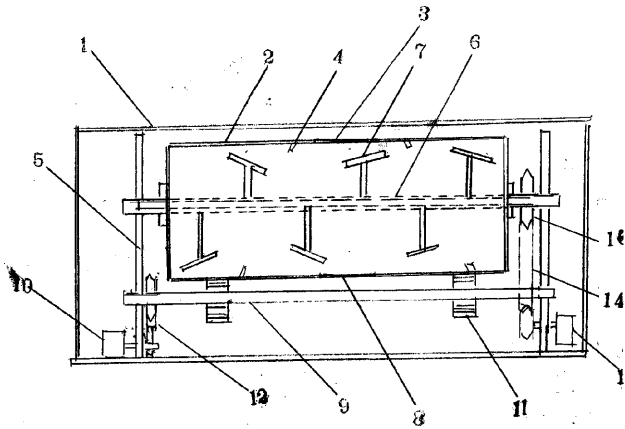
回転処理機断面図

【 图 2 】

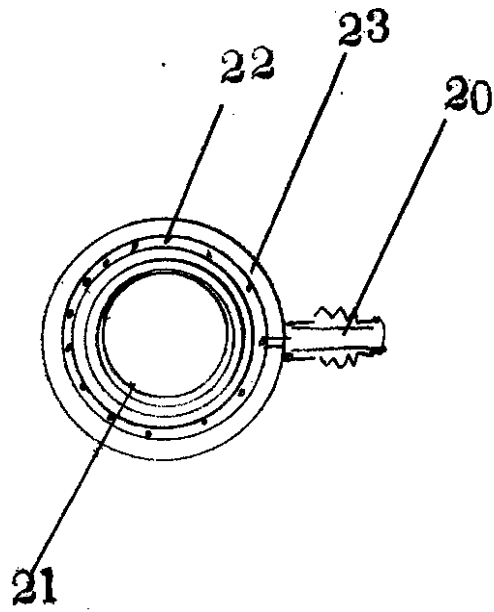


回転処理機斜視図

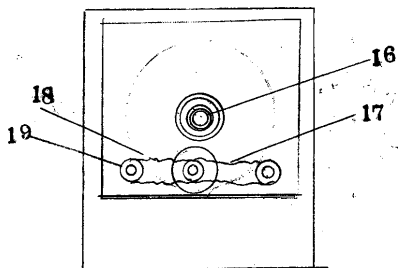
【 图 3 】



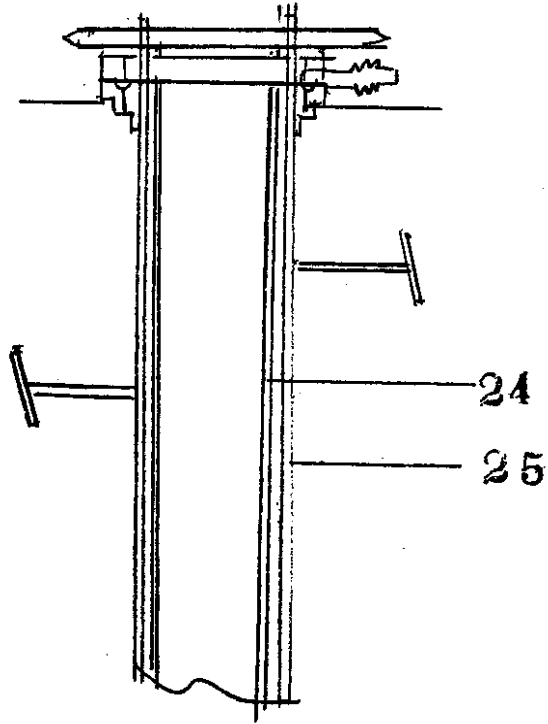
【 图 5 】



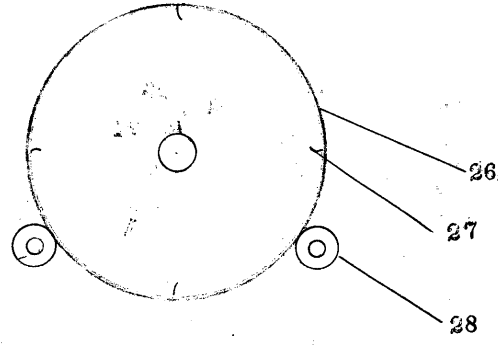
【 图 4 】



【図6】



【図7】



フロントページの続き

(51) Int.Cl.	F I		テーマコード(参考)
C 0 5 F 5/00 (2006.01)	C 0 5 F	5/00	
C 0 5 F 7/00 (2006.01)	C 0 5 F	7/00	3 0 1 D

Fターム(参考) 4D059 AA00 AA07 AA09 AA30 BD02 BD21 BD22 BJ00 BJ01 BJ03
 EB06
 4G036 AA04 AA05
 4G078 AA04 AA15 AB20 BA01 DA01 DA26 DA28 DB01 EA03
 4H061 AA02 AA03 CC51 CC55 GG16 GG18 GG43 GG48 GG67 GG68
 GG69